

令和4年4月19日

令和4年度体操競技国体選手選考方法の訂正・追加について

1. 令和4年度少年男子国体県予選会（5/5）への中学3年生参加基準について

- ①令和3年度強化指定された中学3年生（3名）に出場権を与える。
- ②上記3名を除く、令和3年度県ジュニア大会中学3年生だけの個人総合上位7名までの選手に出場権を与える。
尚、中学選手権大会と少年国体県予選会が連日（5/4・5）となりますので、参加申込をするか否かは選手に任せる。

2. 令和4年度国体選手選考方法について

- ①少年（中学3年生～高校3年生）女子の個人総合得点について。
4日の中学生選手権大会に出場し、国体選手を希望する中学3年生の個人総合得点と5日の関東高校県予選会兼少年国体県予選会の2日間の個人総合得点を合わせて順位付けを行い、上位8名を候補選手として選考する。
- ②国体選手選考基準（少年・成年）について
ア、NHK杯出場者（個人総合順位を優先）を優先（第1推薦）とする
イ、全日本個人総合選手権出場者（個人資格取得者）を優先（第2推薦）とする。

訂正 ↓

i. 全日本選手権出場有資格者（ユニバー枠を除く個人資格取得者）

追加

ii. 男子について、今年度は全日本選手権有資格者（ユニバー枠を含む）

また、ユニバー枠選手は、全日本選手権個人総合の得点を持ち点とし、神奈川県国体予選会出場選手と比較して、個人総合得点の高い選手を上位とする。

以上のア、イで選出された選手を国体正選手とする。

但し、最大4名までとする。上記「ア」と「イ」を合わせて5名以上になった場合には5番目以降の選手は国体県予選会に出場する事。

※全選手ともに国体県予選会への参加申込を絶対必要条件とする。

ウ、国体県予選会の個人総合1位～8位（8名）を国体候補選手とする。

※少年女子は上記①の順位。

エ、候補選手から以下の方法で正選手を決める。

i. 選考基準のア、イを満たす正選手数が4名の場合

国体県予選会上位4名からチーム貢献度が高い選手1名を正選手とする。

ii. 選考基準のア、イを満たす正選手数が3名の場合

国体県予選会上位1名を正選手とする。

国体県予選会上位1名を除いた上位4名からチーム貢献度が高い選手1名を正選手とする。

iii. 選考基準のア、イを満たす正選手数が2名の場合

国体県予選会上位2名を正選手とする。

国体県予選会上位2名を除いた上位4名からチーム貢献度が高い選手1名を正選手とする。

オ、チーム貢献度による選考について

上記「エ、iii」までに選出された4選手と組み合わせたチーム得点（5選手のベスト4得点）が最も高くなる選手を選出する。

カ、チーム貢献度選出選手のタイブレークについて

①チーム得点貢献種目の多い選手を上位とする。

②貢献種目が同数の場合には、貢献した種目の得点に対してポイントを与える。

ポイントは

1位：4P、2位：3P、3位：2P、4位：1Pとする。

合計ポイントが高い選手を上位とする。

キ、上記でも決められない場合には強化部で検討し、常務理事会にて決定する。

※変更理由

ホームページで公表しました「選考基準」について選手や体操関係者から問い合わせがあり、誤解を与えないような表現に訂正しました。

また、今年度の男子全日本選手権出場者はユニバー枠を除くと1名しかおらず、関東ブロック大会に出場しても本国体出場が難しい状況であるので、ユニバー枠の選手も推薦対象に加えて本国体出場の可能性が高くなる様に変更しました。

以上